



内務省特報

◎内務省告示第六百三十三號

市制第三條及町村制第三條ニ依リ昭和十五年十二月二十日ヨリ神奈川縣足柄下郡小田原町、足柄町、大窪村、早川村ヲ廢シ其ノ區域及酒匂村ノ内字山王原、字網一色ノ區域ヲ以テ小田原市ヲ置ク

昭和十五年十二月十八日

内務大臣 安井英二

◎内務大臣並司法大臣の交迭

十二月二十一日左の通交迭せられた。

國務大臣正二位勳一等男爵 平沼騏一郎

任内務大臣

任司法大臣

興亜院總務長官陸軍中將從三位勳一等功五級

柳川平助

各通

内務大臣 安井英二

司法大臣 風見章

依願免本官

◎内務次官其他の交迭

十二月二十二日左の通發令

任内務次官

萱場軍藏

任警視總監

山崎巖

任内務省警保局長

福島縣知事 橋本清吉

内務次官 袂間 茂

各通

警視總監 安倍源基

内務省警保局長 藤原孝夫

依願免本官

◎新舊兩内務大臣の挨拶

十二月二十二日午前十一時内務省全廳員第一會議室に參集、安井前大臣は在官中の謝意を表し且非常時局に於て各員は唯々大御心を奉戴し職域奉公の誠を竭されたと希望を述べられ、新大臣平沼男爵は内務省吏僚としては曠古の世局に在りては皇道の精神を尙ひ惟神の大道を遵守し吏道實踐に努められたき點を諷示せられ挾間次官は全廳員を代表し安井前大臣に對し深甚なる感謝の意を述べ平沼新大臣に對して微力を盡し大政翼賛の實を擧ぐる旨の答辭を述べられた。

◎新内務大臣平沼賦一郎男爵の略歴

平沼賦一郎男は慶應三年九月岡山縣津山に生る、明治二十一年七月十日法律學校卒業の證を授く、同年十月二十二日任判事東京地方裁判所判事、横濱地方裁判所部長、東京



控訴院判事、東京控訴院部長、東京控訴院檢事、司法省參事官、大審院檢事、司法省民刑局長を経て明治四十年

六月十三日法學博士の學位を授けらる。明治四十四年九月六日司法次官に任ぜられ、大正元年十二月二十一日檢事總長、同十年十月大審院長を経て同十二年九月六日司法大臣に任ぜられ十三年一月七日依願免官一月九日貴族院議員に任ぜられ二月二日樞密顧問官、十五年四月十二日樞密院副議長、昭和十一年三月十三日樞密院議長を歴任、同十四年一月五日内閣總理大臣に任ぜられ同年八月五日依願免官、同十五年十二月國務大臣に次て同十二月二十一日内務大臣に任ぜらる。

◎新内務次官宣場軍藏氏の略歴

萱場軍藏氏は明治二十六年九月十一日宮城縣名取郡東多賀村に生る、大正八年七月十日東京帝國大學法科大學法律科を卒業し同月二十二日栃木縣屬に任ぜらるゝ、同日高等文官試験合格、同九年一月二十二日栃木縣警部を兼任再來栃木縣警視、福島縣理事官、内務部學務課長、神奈川縣理事官、地方事務官、兵庫縣地方事務官、同工場監督官を歴任大正十四年十月十八日復興局書記官に任ぜられ、昭和五年三月二十七日島根縣書記官となり、秋田縣書記官警察部長、岡山縣警察部長、愛知縣警察部長、内務事務官、警保局長、岡山縣警察部長、愛知縣警察部長、内務事務官、警保局長、岡山縣警察部長、愛知縣警察部長、内務事務官、警保局長を歴任し同九年七月十日栃木縣知事に任ぜられ次で同十一年三月十一日内務省警保局長に轉じ、同十二年二月十日依願本官を免ぜらる、同年十月一日岡山縣知事に任ぜられ、同十四年一月十一日警視總監に轉じ同九月五日依願本官を免ぜらる、同十五年十二月二十三日内務次官に任ぜらる。

◎山崎本會理事の警視總監任命

元土木局長本會理事山崎巖氏は十二月二十六日警視總監

に任命せられた。

◎大 祓 詞

舊臘御用おさめの二十八日内務省に於て執り行はれた大祓の式に當り配布せられた大祓の詞は左の如し。

大 祓 詞

集侍禮留人等諸聞食世登宜留
 高天原爾神留坐須皇賀親神瀨岐神瀨美命以知氏八百萬神等
 乎神集閉爾集賜比神議里爾議賜比氏我賀皇御孫命波豐葦原
 水穗國乎安國登平介久知食世登事依奉里伎此久依奉里志國
 中爾荒振神等乎婆神問波志爾問賜比神掃比爾掃賜比氏語問
 比志警根樹根立草乃片葉乎母語止米氏天乃警座放知天乃八
 重雲乎伊頭乃千別伎爾千別伎氏天降志依奉里伎此久依奉里
 志四方乃國中登大倭日高見國乎安國登定奉里氏下都警根爾
 宮柱太敷立氏高天原爾千木高知里氏皇御孫命乃瑞乃御殿仕
 奉里氏天乃御蔭日乃御蔭登隱坐志氏安國登平介久知食左牟
 國中爾成出備牟天乃益人等賀過犯志介牟種種乃罪事波天都

罪國都罪許太久乃罪出傳牟此久出傳婆天都宮事以知氏天
 都金木乎本打切里未打斷知氏千座乃置座爾置足波志天都菅
 麻乎本刈斷知未刈切里氏八針爾取辟伎氏天都祝詞乃太祝詞
 事乎宣禮此久宣良婆天都神波天乃磐門乎押披伎氏天乃八重
 雲乎伊頭乃千別伎爾千別伎氏聞食左牟國都神波高山乃未短
 山乃末爾上坐志氏高山乃伊婁理短山乃伊婁理乎搔別介氏聞
 食左牟此久聞食志氏婆罪登云布罪波在良自登科戸乃風乃天
 乃八雲雲乎吹放都事乃如久朝乃御霧夕乃御霧乎朝風夕風乃
 吹拂布事乃如久大津邊爾居留大船乎舳解放知艦解放知氏大
 海原爾押放都事乃如久彼方乃繁木賀本乎燒鎌乃敏鎌以知氏
 打掃布事乃如久遺留罪波在良自登被給比清給布事乎高山乃
 未短山乃未與里佐久那太理爾落多岐都速川乃瀨爾坐須瀨織
 津比賣登云布神大海原爾持出傳奈牟此久持出往奈婆荒潮乃
 潮乃八百道乃八潮道乃潮乃八百會爾坐須速開都比賣登云布
 神持加加吞美氏牟此久加加吞美氏婆氣吹戸爾坐須氣吹戸主
 登云布神根國底爾氣吹放知氏牟此久氣吹放知氏婆根國底
 爾爾坐須速佐須良比賣登云布神持佐須良比失比氏牟此久佐

須良比失比氏婆今日與里始米氏罪登云布罪波在良自登今日
 乃(夕日乃降乃)大祓爾被給比清給布事乎諸聞食登宣留
 (神職等大川道爾持退出傳氏被却禮登宣留)

備考 大祓詞中括弧ヲ附セル箇所ヲ削ル

新年雜吟

婦美

幾隻の船の國旗や初日影
 湖一ばいに初日あか〜と村靜か
 捨ぬけばなき妻思ふ掃初め
 東風の窓妻の遣せし衣干す
 鳥追の霜ふんでくる聖護院
 手毬飛んで南天の鉢倒れたる
 歸國して羽子になれたる二世の子
 雜煮乏し幼な心のうちみ言
 福壽草の鉢に日脚の埃かな
 友の遺兒かるたに交る夕あり
 繪双六に勝を制して手毬かな
 歎初め勸勞奉仕誓ひけり